

概 要

1 気象概況

- 気象庁資料からみた、平成18年の月別の気象概況は、以下のとおりである -

1月 強い冬型の気圧配置と寒気の影響で、全国的に低温や大雪となった。

上旬は、強い寒気の影響を受け全国的に低温となり、また強い冬型の気圧配置になりやすい日が続き、全国的に降雪となった。特に日本海側を中心に大雪となった。

中旬は、前半に日本海や本州南岸の低気圧が通過し、東日本以西を中心に高温となった。後半からは再び冬型の気圧配置が強まり、北・東日本を中心に寒気の影響を受けた。

下旬は、中旬後半から引き続き冬型の気圧配置が強まり、北・東日本を中心に寒気の影響を受けた。特に、21日には本州南岸を東進した低気圧の影響で、関東の平野部を中心に大雪となった。

2月 低気圧や前線の影響で、全国的に曇りや雨または雪の日が多かった。

上旬は、低気圧が本州南岸を周期的に通過し、低気圧の通過後は上空に非常に強い寒気が流れ込んだ。このため、日本海側を中心に大雪となり、太平洋側や伊豆諸島でも積雪があるなど、気温の低い日が多かった。

中・下旬は、低気圧が日本の北を周期的に通過したため、南から暖かい空気が流れ込みやすく気温の高い日が多かった。また、日本の南海上に前線が停滞しやすかったため、太平洋側を中心に曇りや雨の日が多かった。特に、26日は太平洋側で大雨となった。

3月 北日本では低気圧の通過が多かった影響で、日照時間がかなり少なかった。

上旬は、日本海の低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込んだり、また高気圧に覆われ晴れて気温が上がるなど、気温の高い日が多かった。

中旬は、低気圧が東方海上で発達、一時冬型の気圧配置となり、所によっては大雪となったほか、東日本以西では気温が平年を下回った。

下旬は、北・東日本の日本海側及び南西諸島で低気圧や前線の影響で降水量が多かった。特に、28日から29日にかけて、日本付近を通過した低気圧が北海道付近で発達し、北日本では荒れた天気となり、西日本でも寒気が入ったことから、サクラの開花後の季節外れの降雪となった。

4月 北・東・西日本では日照時間がかなり少なく、特に北日本では記録的な寡照となった。

上旬は、短い周期で低気圧や前線が本州付近を通過した。低気圧の通過後は、北日本を中心に一時的に冬型の気圧配置となり、北海道では雪の日も多かった。

中旬以降は、相次いで動きの遅い寒冷低気圧が通過したため、北・東・西日本では、気温が低く、日照時間の少ない日が多かった。また、寒気の通過の際、関東を中心に落雷や降ひょうも観測された。

5月 東・西日本では日照時間がかなり少なく、降水量も多かった。

上旬は、前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、後半から中旬にかけては本州付近を通過した低気圧や前線の影響で、東・西日本を中心に曇りや雨の日が多かった。北日本では高気圧に覆われて晴れの日が多かった。

下旬は、前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、後半からは東シナ海から日本海に進んだ寒冷低気圧の影響で、曇りや雨の日が多かった。

6月 全国的に月前半は気温が低く、後半は高かった。

月前半は、寒冷低気圧やオホーツク海高気圧の影響を受けた北日本と、梅雨前線が停滞した南西諸島で低温が顕著であった。また、梅雨前線が停滞した南西諸島ではしばしば大雨となった。

下旬は、太平洋高気圧が強まり前線が日本列島付近に停滞したため、西日本では大雨となったり、東日本では曇りの日が多かった。また、北日本では北海道を中心に、低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。

7月 東・西日本では大雨となり、日照時間もかなり少なかった。

月を通じて梅雨前線が本州付近に停滞したため、南西諸島を除いて曇りや雨の日が多かった。特に中旬後半から下旬前半にかけては、梅雨前線がゆっくりと南下したため、山陰、北陸、長野県及び九州では記録的な大雨となり、甚大な被害が発生した。

梅雨前線が下旬まで本州付近に停滞したため、東・西日本の梅雨明けは平年よりかなり遅れ、日照時間も全国的にかなり少なかった。

8月 全国的に気温が高く、東・西日本の日本海側では日照時間が多かった。

上・中旬は、太平洋高気圧が日本付近を覆い晴れて暑い日が多かった。また、全国的に降水量が少なかったものの、台風第10号や活発化した前線の影響で九州や北海道の一部地域では大雨となった。

下旬は、前半は北日本を中心に低気圧や前線の影響で曇りや雨となり、後半からは東・西日本でも前線の影響を受けるようになった。特に、月末には前線の活動が活発となった九州で大雨となった。

9月 台風第13号が九州に上陸し、暴風雨や竜巻による被害が発生した。

上旬は、前半は移動性高気圧に覆われ晴れる日が多く、後半からは寒冷前線が南下したことや動きの遅い低気圧が通過したことにより、東日本から西日本にかけて雨となった。

中旬は、前線が本州南岸に停滞し、全国的に曇りの日が多かった。また、台風第13号が17日に長崎県に上陸し、九州北部を通過して日本海を北東進し、20日には北海道に再上陸した。このため、南西諸島や西日本では暴風雨となった。台風通過後は、東・西日本を中心に高気圧に覆われ晴れる日が多く、少雨が続いた。

下旬は、高気圧に覆われ全国的に晴れる日が多かった。

10月 北・東日本の太平洋側では記録的な大雨、西日本、南西諸島では記録的な少雨となった。

月を通じて強い寒気の南下はなく、高気圧に覆われ晴れて暖かい日が多かったため、ほぼ全国的に気温が高かった。

また、6日から8日にかけては低気圧が急速に発達しながら本州の太平洋沿岸を北上したため、北・東日本の太平洋側を中心に記録的な大雨となった。

一方、西日本と南西諸島では高気圧に覆われて晴れる日が多かったため、降水量はかなり少なく、日照時間は多かった。月降水量は、西日本の太平洋側で1946年以降第3位、南西諸島では第2位の少雨の記録を更新した。

11月 全国的に気温が高く、降水量も多かった。

上旬は、前半を中心に全国的に晴れて暖かい日が多かった。特に北日本では、低気圧や前線に向かって南風が吹き込み顕著な高温となった。

中旬以降は、北日本では一時的な冬型の気圧配置になり、北海道を中心に雪の日もあったが、強い寒気の南下はなく気温は平年並みから高く経過した。東日本から南西諸島にかけては周期的に天気が変わったが、低気圧の通過の際には暖かく湿った空気の影響でまとまった降雨となり、26日には四国や紀伊半島の一部地域で記録的な大雨となった。

下旬は、寒気の南下がほとんどなく、西日本や南西諸島では顕著な高温となった。

12月 全国的に多雨・寡少、北・東日本の日本海側では少雪となった。

上旬前半は、冬型の気圧配置が続き、日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、気温も平年を下回った。

その後は、時折冬型の気圧配置となったものの長続きせず、全国的に気温の高い日が多かった。そのため、月降雪量は日本海側で平年を下回り、北・東日本の日本海側で少なかった。

また、日本列島の南岸を低気圧が頻繁に通過したため、南西諸島や西・東日本の太平洋側を中心に曇りや雨の日が多く、ほぼ全国的に日照時間が少なくなった。

表1 梅雨入り・梅雨明けの状況（平成18年）

（梅雨入り）

| 地 域 | 本年 | 平年 | 前年 |
|------|---------|---------|---------|
| 沖 縄 | 5月 14日頃 | 5月 8日頃 | 5月 2日頃 |
| 奄 美 | 5月 11日頃 | 5月 10日頃 | 5月 5日頃 |
| 九州南部 | 5月 26日頃 | 5月 29日頃 | 6月 11日頃 |
| 九州北部 | 6月 8日頃 | 6月 5日頃 | 6月 10日頃 |
| 四 国 | 6月 8日頃 | 6月 4日頃 | 6月 11日頃 |
| 中 国 | 6月 8日頃 | 6月 6日頃 | 6月 11日頃 |
| 近 畿 | 6月 8日頃 | 6月 6日頃 | 6月 11日頃 |
| 東 海 | 6月 8日頃 | 6月 8日頃 | 6月 11日頃 |
| 関東甲信 | 6月 9日頃 | 6月 8日頃 | 6月 10日頃 |
| 北 陸 | 6月 15日頃 | 6月 10日頃 | 6月 27日頃 |
| 東北南部 | 6月 9日頃 | 6月 10日頃 | 6月 15日頃 |
| 東北北部 | 6月 15日頃 | 6月 12日頃 | 6月 25日頃 |

（梅雨明け）

| 地 域 | 本年 | 平年 | 前年 |
|------|---------|---------|---------|
| 沖 縄 | 6月 20日頃 | 6月 23日頃 | 6月 27日頃 |
| 奄 美 | 6月 22日頃 | 6月 28日頃 | 6月 27日頃 |
| 九州南部 | 7月 25日頃 | 7月 13日頃 | 7月 15日頃 |
| 九州北部 | 7月 26日頃 | 7月 18日頃 | 7月 17日頃 |
| 四 国 | 7月 26日頃 | 7月 17日頃 | 7月 16日頃 |
| 中 国 | 7月 26日頃 | 7月 20日頃 | 7月 18日頃 |
| 近 畿 | 7月 27日頃 | 7月 19日頃 | 7月 18日頃 |
| 東 海 | 7月 26日頃 | 7月 20日頃 | 7月 18日頃 |
| 関東甲信 | 7月 30日頃 | 7月 20日頃 | 7月 18日頃 |
| 北 陸 | 7月 30日頃 | 7月 22日頃 | 7月 18日頃 |
| 東北南部 | 8月 2日頃 | 7月 23日頃 | 8月 4日頃 |
| 東北北部 | 8月 2日頃 | 7月 27日頃 | 8月 4日頃 |

注：気象庁資料による。

2 被害概況

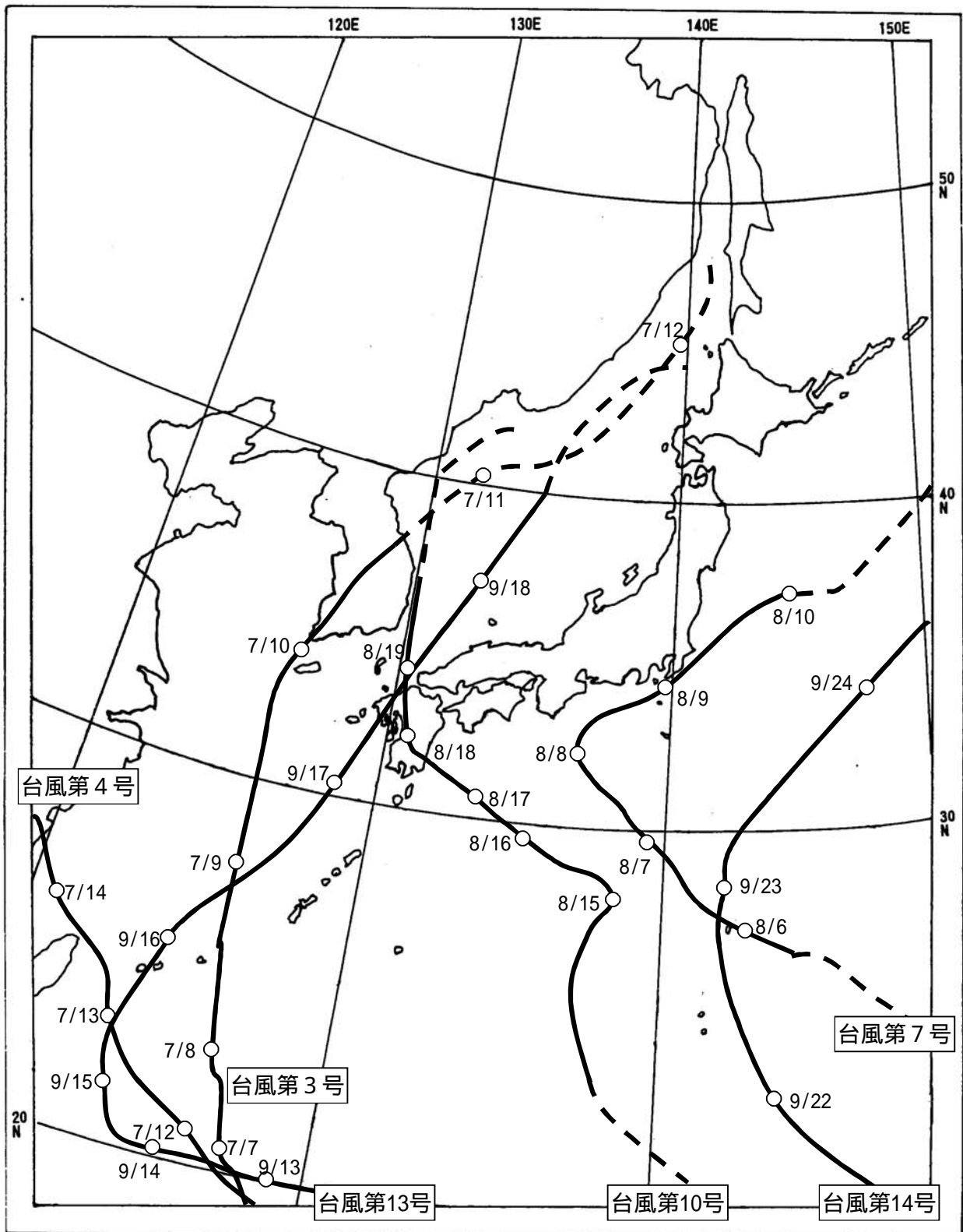
平成18年は、4月以降梅雨明けまでほぼ全国的に日照不足が続き、農作物全般に1,441億円の被害が発生した。

このほか、9月17日、九州北部に上陸した台風第13号により、水稻を中心に459億円の被害が発生した。

表2 平成18年に発生した主要災害種類別被害概要（総数）

| 災害種類名 | 被害発生時期 | 被害面積 ha | 被害見込金額 億円 | 主な被害農作物 | 被害発生地域 |
|------------------|--------------|------------|--------------|-------------|---|
| 平成17年12月初旬からの降雪等 | 平成17年12月初旬以降 | 26 000 | 55 | 果樹、麦類 | 北海道、東北、福井、長野、東海（静岡を除く。）、京都、兵庫、鳥取、島根、広島、愛媛、高知、佐賀、長崎、熊本、鹿児島 |
| 3月28日の降ひょう | 3月28日 | 2 040 | 12 | 果樹 | 和歌山 |
| 4月から梅雨明けまでの日照不足等 | 4月～梅雨明け | 2 077 000 | 1 441 | 水陸稲 | 全国（沖縄を除く。） |
| 梅雨前線豪雨 | 6月～7月 | 18 900 | 34 | 果樹、水陸稲、野菜 | 秋田、北陸（富山を除く。）、長野、岐阜、京都、和歌山、中国（山口を除く。）、愛媛、熊本、宮崎、鹿児島 |
| 台風第13号 | 9月15日～20日 | 227 400 | 459 | 水陸稲 | 北海道、青森、秋田、山形、中国、四国（香川を除く。）、九州 |
| 10月4日から9日の大雨、強風 | 10月4日～9日 | 16 000 | 14 | 野菜、果樹、雑穀・豆類 | 北海道、東北、茨城、群馬 |

3 平成18年に日本列島に上陸・接近した台風経路図



- 注：1 経路上の印は傍らに示した日の午前9時の位置を示す。
 2 経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。
 3 気象庁資料から作成した。